

保護主義時代のプラザ合意

トランプ大統領と製薬業界のトップたちがテーブルを囲んでの会談の様子はテレビで見ていると驚いた。殿様と家来の関係だ。追従と卑屈さが会議を支配して見苦しかった。ロシアのプーチンとオリガルヒとの会談でも、中国の習近平と国営企業幹部との会議でもそれほど露骨な卑屈さはないに違いない。

大統領が中国と日本を名指して通貨安で莫大な利益を上げていると非難したのはその席だ。金融政策を使って通貨安を実現しているとの言い回しは特に日本を念頭に置いたものだろう。

一方で通商政策を取り仕切る国家通商会議のトップが FT とのインタビューでユーロ安を利用したドイツの政策を非難した。ユーロを隠れドイツマルクと称し、通貨安で米国や他の EU 諸国に打撃を与えてきたというのだ。

政権のトップらが時を一にして為替レートに言及するのは偶然ではない。政権の戦略の一つであるには違いない。彼らの言い回しを見ると主張は揺るぎないようだ。

ほんの数年前に米国が大規模な金融緩和でドル安に導き、ブラジルの財務大臣から通貨戦争を主導していると非難されたことなど眼中にない。貿易黒字は不公正の賜物であり、それは主に意図的な通貨安政策から生まれる、と固く信じている。

彼らは説明されて納得するような人たちではない。そうでないことを誇りに思っている。したがって米国の貿易赤字が激的に減少するか、ドル高が大幅に修正されるか、外国企業が米国での生産を大幅に増やすか、誰にもわかる目に見える結果が出るまで主張は引っ込めないだろう。

ドル高が修正しても貿易赤字が目に見えて減少するわけではないと論しても、それはグローバリストの時代遅れの陳腐な考えだと一蹴するだけだ。

新大統領はレーガン政権を意識しているようだが、レーガン政権の第二期にドル高修正のためのプラザ合意が生まれた。G5（米、英、仏、独、日）が合意したわけだが、一期目に米大統領首席補佐官だったベーカーが財務長官に転じて各国の調整を図った。だが保護主義を是とするトランプ政権は国際的な枠組みに興味はないようなので、実行するなら個別交渉で通貨調整を図る単独プラザ合意のようなものだろうか。